

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞  
(国土交通大臣賞)

「避難が被害を減らす」

愛媛県 宇和島市立吉田中学校 2年 幸瀨 美嘉

あの朝のことを、私は今も忘れることができない。今年の7月7日、土曜日の朝、6時半頃だった。

何日も降り続いていた雨が、昨夜はひときわすごかった。外の様子を見て来ると言っておかけた父の、

「もう、少しずつ水が入ってきている。すぐ2階に避難しよう。」

という声を聞いて、私たち家族は、慌てて家の2階へ避難した。

その直後、家に水が入ってきて、すぐに1階は水浸しとなってしまった。あつという間の出来事だった。自分たちが避難するのに精いっぱい、1階の荷物を2階に持って上がる余裕がなかったため、1階の床に置いていた物は、全てダメになってしまった。

少し時間が経ち、外へ出ることができるようになった時私が見たのは、流れてきたゴミが散乱し、泥水によって汚れ、変わり果てた景色だった。

近所の人たちの様子を見に行くと、皆同じように浸水や土砂の被害を受けていた。そして口を揃えて、

「まさか、ここまで水が来るとはねえ。」と言っていた。

昨年起こった西日本豪雨によって、私の住んでいる宇和島市吉田町は、甚大な被害を受けた。私の家や学校のように浸水したり、土砂崩れにより家が流されたり、特産品であるみかんの木や畑も流されたりした。そして、多くの尊い命も失われた。

私は、この辛い経験を通して、何故ここまで被害が大きくなったのか、今後このような災害を防ぐためにどうすれば良いのか考えた。

まず、今回ここまで被害が大きくなってしまったのは、避難が遅れたからだとは思う。あの頃、毎日雨が降り続き、前日にも大雨警報が出され、学校は臨時休校になっていた。大雨への警戒をしっかり行い、もし、早めに避難していたら、救われた命がたくさんあったのではないかと。何故、避難が遅れてしまったのか。私は、2つの問題点があると考えた。

1つ目は、先入観である。

「今までも大雨が降ったことはあったが、避難する必要はなかった。だから、今回も大丈夫だろう。」とか、

「私たちの住んでいる地区で災害が起こるわけない。避難しなくても大丈夫だろう。」

そういう先入観が避難を遅らせ、被害を拡大させたのだと思う。

2つ目は分かりづらさである。

災害当時の避難指示は、分かりにくいと感じた。「避難勧告」のような表現では、個人の判断に任されてしまうため、避難しない人が多くなってしまったのではないかと思う。

では、これらの問題点をどうすれば良いのか。皆が速やかに避難するためにはどうすれば良いか、私なりに2つの改善点を考えた。

1つ目は、「災害は必ず起こる」と思うことである。現実には、西日本豪雨災害以降にも日本全国様々な所で、自然災害が起こっている。これからは、「いつ、どこでも災害は起こりうる」という考えを常に持ち、いざ、という時すぐに避難できるように、防災バッグ等を準備しておくべきだ。私の家では、非常食や防寒シートなど、必要最低限の物をバッグに入れて玄関に置き、すぐ持ち出せるようにしている。

2つ目は、早めの避難を心掛けることである。今年から避難指示は「レベル」で段階を分けて表現されるようになり、とても分かりやすくなった。より早く、安全な時に、確実に避難ができるはずだ。

**令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞  
(国土交通大臣賞)**

避難指示が分かりやすくなった今、私たちにできることは何か。少しでも被害を防ぐためにはどうすれば良いか。

私は、西日本豪雨災害を経験して、家族はもちろん地域や親せき、友達など、周りとの繋がりが大事だと感じた。避難しようかどうしようか迷った時、周りの人に声を掛け、一緒に避難する。これができるれば、自分も周りの人も早く避難でき、大切な命を守ることができる。そのためには、日頃から速やかに避難するために話し合うことも大切だと思う。

災害後、私は宇和島市の防災マップを見た。すると、西日本豪雨で実際に土砂災害が起こった所のほとんどは、土砂災害警戒区域に指定されていた。これまで、防災マップをあまり見ていなかったが、とても役に立つものだと知った。警戒区域に住んでいる人は参考にして、早めの避難を心掛けるべきだと思う。

災害はいつ起こるか分からない。西日本豪雨で、家も学校も浸水し、地域全体が大きな被害を受け、土砂災害の恐ろしさを知った。水の恐ろしさも、大切さも改めて分かった。何より、早めの避難が大切だということを身を持って知った。この経験を忘れず、早めの避難ができるよう、今後に生かしていきたい。